

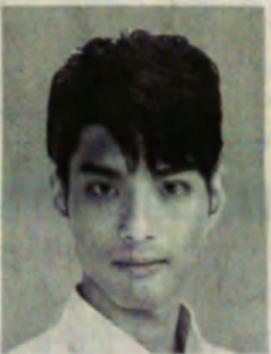


「月光の夏」を上演するチーム・クレセントの片山美穂さん

特攻隊員の運命

東京・下北沢 3日から朗読劇

ピアノを通じ描く



井手麻渡さん

戦時中、特攻に出撃しながら生死が分かれた隊員の実話を元にした小説「月光の夏」（毛利恒之原作）が七月三―五日、芝居と朗読が混然一体となった朗読劇として、東京・下北沢駅そばの劇場「しもきた空間リパティ」で上演される。女優片山美穂さんが主宰する劇団「チーム・クレセント」が、俳優仲代達矢さんらの「無名塾」の応援を得て演じる。

「戦後七十年の今年、何かをしなければと考えた末の月光の夏だった」と片山さん。作品は特攻隊員が弾いたピアノを軸に展開す

る。「集団的自衛権の合憲解釈など世の中が変な方向に動いているので、子どもでも分かるように難しいひねりなどなく、分かりやすく、きれいな話を選んだ」という。

音楽学校出身の隊員と友人の二人の隊員が、飛行訓練を受けていた基地の近くの国民学校にピアノがあることを知り、訪ねてベートーベンの「月光」を弾かせてもらう。その後二人は出撃したが、一人はエンジン不調で基地に帰還する。戦後、ピアノが処分されそうになることから、生死を分けた二人の運命とその後が明らかになっていく。

映画や舞台になっている作品だが、朗読劇という形をとったことを「シンプルで小さい劇場でも大丈夫だから」と話す。出演は隊員二人の井出麻渡（無名塾）と高橋賢史（フリー）ら。

チーム・クレセントは、片山さんが、戦災孤児の人生を描いた作品「お菓子放浪記」で知られる作家西村滋さんにほれ込み、「社会性のある演劇活動をしていこう」と五年前につくった。問い合わせはチーム・クレセント＝電070（6470）0384＝へ。

（編集委員・小寺勝美）